

目線の話

10月7日(水)放送 NHK TV「目神サマは知っている」
「新感覚！目線のぞきみ」から

NHK TVの標記放送内容の概要を紹介し、その後、数年前に熊本市の寺原(てらばる)自動車学校で行われた実技講習会における座学講習で行われたプレゼンテーションの一部を紹介する。

■ 空き巣狙いの視線

空き巣狙いに詳しい人が、あるお宅に忍び込んで物色する様子と、その人の視線がどこを向いているかをオレンジ色の線で展示した。そのお宅の夫婦はモニターで見ている。

インターホンを鳴らす(留守かどうかを確かめる)。

反応がないことを確認し、門を開けて入り、玄関の鍵をピッキングで開放する。

下駄箱の中を確認する。靴の空き箱の中を点検する(この中にお金が入っていることが多いであろう。過去の経験をもとに効率よく行動する)。

台所の冷蔵庫

貴重品を隠す家庭が多い。その他の理由として、その家庭の生活レベルが分かる(この時点で期待値が低ければ、撤退も考える)。

リビングルーム

ソファ上のタブレット端末を盗む(換金しやすい)。保険証もあれば盗む(売る場合に証明書になる)。

和室

仏壇を調べる(お金を入れている人が多い。事前に家族構成を調べており、高齢者のお宅は仏壇に隠すことが多い)。

寝室

災害などの非常時に持ち出すために、貴重品を置くことが多い。このとき、そのお宅の奥さんのヘソクリが見つかった。

以上でかかった時間は5分だった。泥棒はグーグルマップの「ストリートビュー」を見て事前に研究している。

Q それでは、盗まれないための、とっておきの場所はどこか？

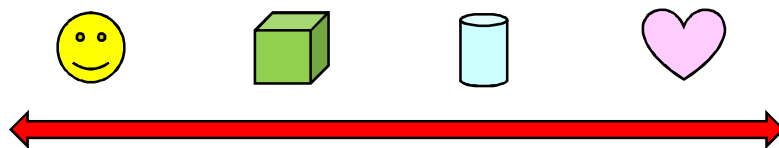
A 泥棒の目線は常に下向きであったことから、高いところ(棚の上など)がよい。

■ 目線で運転が上手になる！？

ベテランのバスの運転手の目線と一般のドライバーの目線を比較して解説が行われた。前者は遠くを見ており、後者は近くを見ている。遠くを見ているほうが脳に情報が伝わりやすい。

近くばかりをキョロキョロ見ていると、脳が画像の処理のために多く使われる。特に動いているものを見るときは、近くだと非常に見えづらいが、遠くだとよく見える。プロは道の中央を見ている。

下図のように人物やぬいぐるみなどが並んでいる状態で、左右に速く視線を振った場合、瞬間のぶれた映像は、真ん中の人物や物を見ていない。これを「サッカード抑制」という。



■ 寺原自動車学校の座学におけるプレゼンテーションの例

数年前、寺原自動車学校における実技講習会に立会した際、企業講習のベテラン林田部長が、毎年のことながら上手なプレゼンテーションをして下さった。定年になられて残念な思いをしている。

部長は「何回パスしたか数えて下さい」と言って、外国の白黒動画を上映する。エレベーター・ホールで約7名の男女が一つのバスケットボールをランダムにパスしながら歩き回る動画である。

動画を見終わったあと、講習参加者は「9回」とか「11回」とか答える(下図の上のイラスト)。すると教官は「何かが通りましたか?」と質問するが、まったく記憶がない。「では、もう一度上映します」と言って上映された動画を見ると、男女の間を、熊の着ぐるみを着た人が通っているのである(下図の下のイラスト)。あるモノを注視していると別のモノが見えなくなるということを如実に感じた次第である。



以上